

みる つくる がた

APPRECIATE

DISCUSS

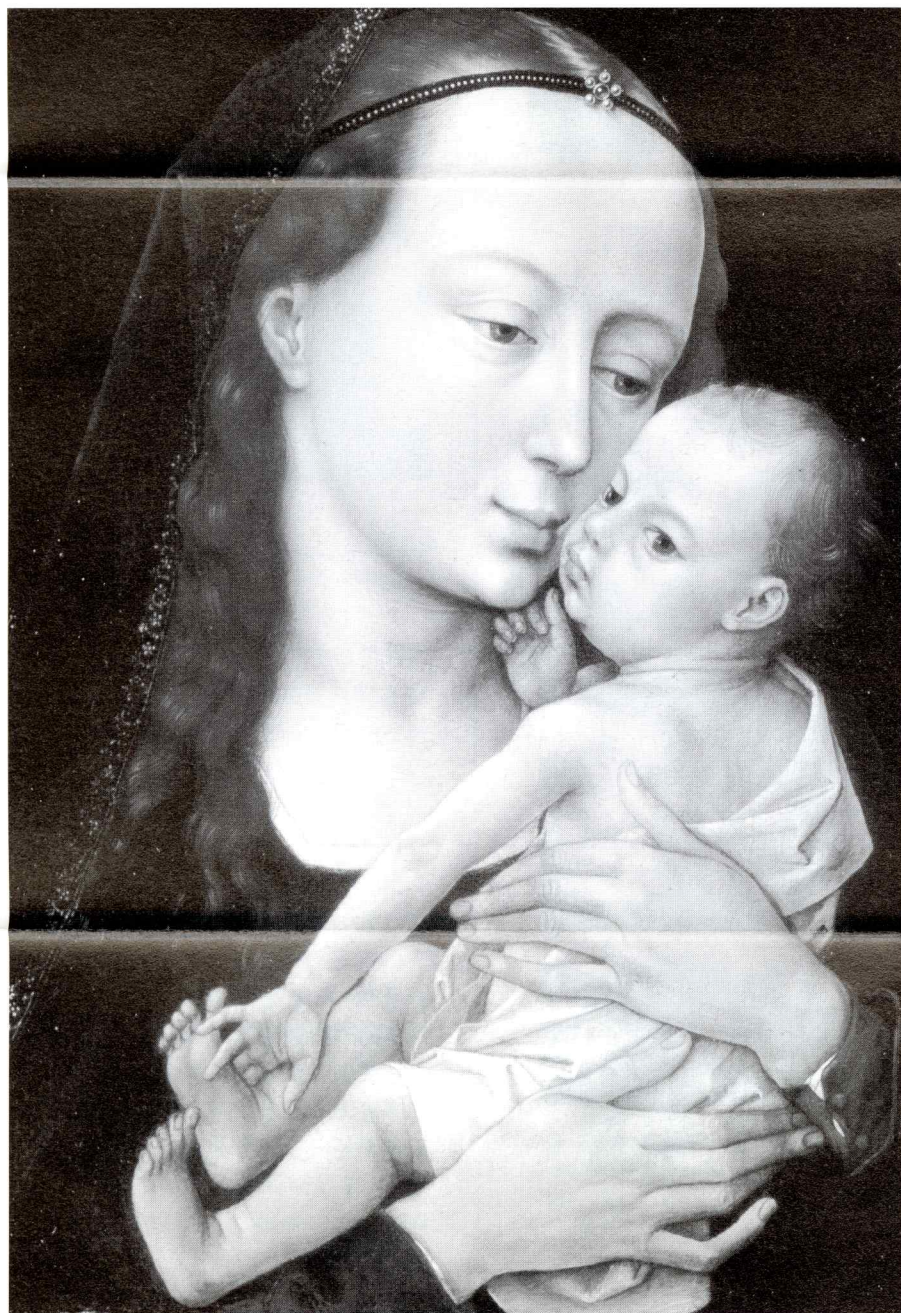
CREATE



VOL.25

1999

ART NEWS
千葉県立美術館



聖母マリアが両手で幼児のキリストを抱き寄せて母子が頬を寄せ合う図像は、数ある聖母子像のうち「甘美なる愛の聖母」に分類され、その派生として「恩寵の聖母子」が描かれたといわれます。本作は、この「恩寵の聖母子像」を下敷きにして制作されたと考えられますが、わが子に向けられた視線は、愛おしさと憂いが表現され現実の母子に通ずる情感がうかがえます。

15世紀半ば以降、ネーデルランド（ベルギーとオランダ）では、半身像の聖母子を描いた小型祈念画に対する新たな趣味が芽生えました。ウエイデン（1399頃～1464）も、聖堂に掲げるための大作のみならず、本作品のような市民の個人的礼拝の対象として小品の宗教画にいくつかの新しい形式を生み出し、多くの板絵の作品を制作しました。ウエイデンは、15世紀中期の北方絵画（フランドル絵画）の中で最も重要な画家の一人です。

ロヒール・ファン・デル・ウェイデン

「聖母子」

1454年以降 油彩・板

© 1999 Museum of Fine Arts, Houston. All rights reserved.

千葉県立美術館
開館25周年記念特別展

ヒューストン美術館展

6/5(土)ー7/11(日)

—開館 25 周年記念特別展—

ヒューストン美術館展

—ルネサンスからセザンヌ、マティスまで—

千葉県立美術館は、昭和49年に開館し、この展覧会は開館25周年記念特別展として開催するものです。

ヒューストン美術館はテキサス州最初の美術館で、1924年に開館しました。この美術館が収蔵する作品は、個人や企業からの支援により、エジプト美術から西洋美術をはじめ、現代アメリカの美術や東洋美術など、広く世界美術を概観できる約4万点を数えます。今回はこれらの作品にサラ・キャンベル・ブラッファ―財団所蔵作品を加えて、ヒューストン美術館が海外ではじめて開催する展覧会が実現しました。

今日の西洋美術はキリスト教的題材を扱いながらその表現によって人間性の回復を再認識した15世紀のイタリア・ルネサンスにはじまったといわれます。

今回の展覧会で特に注目される祭壇画などの板絵作品には、初期イタリア・ルネサンスのフラ・アンジェリコ「金塊を遠ざける聖アントニウス」、また15世紀北方美術からはロヒール・ファン・デル・ウェイデンの「聖母子」、ハンス・メムリングの肖像画など、その数は14点を数えます。

マニエリスムを経て、続く17世紀のバロックは、人間復興といわれながらも、ルネサンスに色濃く残っていた宗教画や神話の作品か



フラ・アンジェリコ

「金塊を遠ざける聖アントニウス」1430年代

© 1999 Museum of Fine Arts, Houston.
All rights reserved.



ハンス・メムリング

「年老いた女性の肖像」1468-70年

© 1999 Museum of Fine Arts, Houston.
All rights reserved.

らの脱却をめざし、現実的で躍動感に満ちた作品を生みました。バロックは16世紀の盛期ルネサンスの伝統を受け継ぎながら主題、表現とも極めて多彩な展開を見せました。ここではイタリアのジェンティレスキや、17世紀オランダ絵画からはヤコブ・ファン・ロイスダールやヤン・ステーン の作品などを紹介します。



フランソワ・ブーシェ

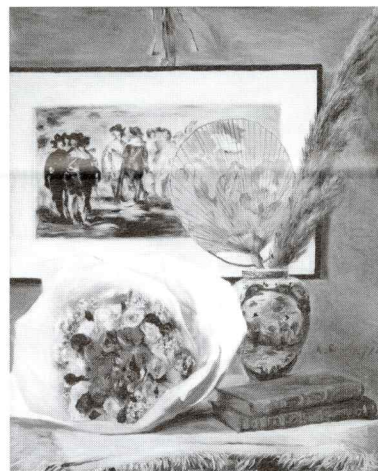
「収穫する天使たち」1734年頃

© 1999 The Sarah Campbell Blaffer Foundation, Houston. All rights reserved.

18世紀ロココ芸術は、貴族や上流階級の好みによって、官能的で装飾的要素を強調した作品を生みました。現在ではロココは18世紀の文化全般をさす言葉として定着しています。フランスのフランソワ・ブーシェのほか、ヴェネツィア派の画家のカナレットの作品、またイギリスはトマス・ゲーンズバ

ラやジョセフ・ライトらの作品を紹介します。

18世紀末のイギリス産業革命とフランス革命は、19世紀ヨーロッパに大きな影響を与えました。美術においても新古典主義の台頭からロマン主義、近代風景画を確立したバルビゾン派を含む写実主義さらに印象派へとめまぐるしい展開を遂げています。



オーギュスト・ルノワール

「花束のある静物」1871年

© 1999 Museum of Fine Arts, Houston.
All rights reserved.

ここでの主な出品作家は、ロマン主義ではドラクロア、バルビゾン派からテオドール・ルソーやカミーユ・コロー、写実主義のギュスターヴ・クールベらを紹介しています。また印象派ではオーギュスト・ルノワール、後期印象派のポール・セザンヌ、さらに二十世紀のアンリ・マティスやピエト・モンドリアンなどの馴染みのある作家の作品も数多く展示しています。

今回の展覧会では、ヒューストン美術館の広範なコレクションから、日本であまり公開する機会の少ない14世紀後半の祭壇画にはじまり現代にいたるヨーロッパ美術の豊穡な流れを概観できる72点の作品を紹介しています。ぜひこの機会に御鑑賞ください。

開館時間 午前9時～午後4時30分
入場料 一般 800円(600円)
高大生 500円(400円)
小中生 300円(70円)
※()内は20名以上の団体料金
休館日 毎週月曜日

常設収蔵作品展

各テーマごとに本館が収蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画等の作品を展示します。

<開催中の展覧会>

「新収蔵作品」

4月1日(木)～5月28日(金)
新たに収蔵した作品を紹介します。

「風景の表現」

4月1日(木)～5月28日(金)
房総を描いた作品を主に、多様な洋画による風景画を紹介します。

「日本画の魅力」

4月1日(木)～5月28日(金)
いろいろな材料や技法を使った、多様な日本画の表現を紹介します。

<これからの展覧会>

「版画の魅力」

7月17日(土)～8月29日(日)
複数の版画家による、さまざまな版画作品の表現の違いを紹介します。

「こどものための展覧会」

7月17日(土)～8月29日(日)
夏休み中のお子様を対象とした作品の展示・紹介をします。

「浅井忠と弟子たち・フォンタネージとバルビゾン派」

7月17日(土)～8月29日(日)
11月13日(土)～4月9日(日)
近代日本洋画の先駆者として活躍した浅井忠や師フォンタネージを中心に、その関連作家の作品を紹介します。

「書」

11月27日(土)～1月23日(日)
房総の代表的な書家に焦点をあて、多様な書の表現の違いを紹介します。

「季節の表情」

11月27日(土)～1月23日(日)
1月29日(土)～4月16日(日)
様々なモチーフのとらえ方により感じられる季節の表情を絵画作品を主に紹介します。

「工芸の世界」

11月27日(土)～1月30日(日)

2月5日(土)～4月9日(日)

魅力あふれる様々な工芸作品を紹介します。

「彫刻」

1月12日(水)～4月16日(日)
多様な素材・技法により表現された彫刻作品を紹介します。

「動物の表現」

1月29日(土)～4月16日(日)
動物をモチーフとして取り上げられている作品を通し、表現の違いによる魅力を紹介します。

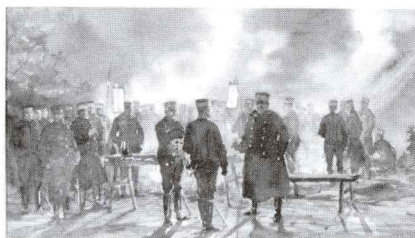
新収蔵作品

平成10年度に収蔵した作品は次のとおりです。

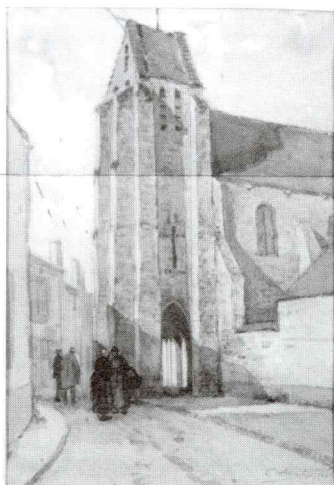
《基金》

「洋画」

浅井 忠 「グレーの塔」
「樂家邨天長節祝宴」



浅井忠「樂家邨天長節祝宴」1894-95頃



浅井忠「グレーの塔」1901

ジョルジュ・ビゴー

「稲毛の女漁師と子ども」
「稲毛の夕焼け」
「稲毛村のわがアトリエ」
「女漁師」
「岸壁の二人」
「二人の漁師」
「漁師と舟」



ジョルジュ・ビゴー「稲毛の女漁師と子ども」
1892-97頃

《購入》

「日本画」

富取風堂 「霜汀」

「洋画」

浅井 忠 「朝鮮大同門図」
「本所風景」

小堀 進 「大穹」

篠崎輝夫 「敦煌莫高窟」

「書」

千代倉桜舟 「いろはうたの構築」

《寄贈》

次の作品を御寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

「日本画」

大岩八重子氏より

大岩成徳 「玉蜀黍」

「南天に小禽」

富取町子氏より

富取風堂 「雀と桃」

「猫とかに」

「富士」

「洋画」

大野盛徳氏より

大野隆徳 「香遠亭」

「隅田川」

「李朝の鉢と金魚」

「ルイニ『葡萄と子供』

(模写)

佐々木房江氏より

佐々木一郎 「漁村(1964)」

「漁村」

「漁村(1982)」

篠崎輝夫氏より

篠崎輝夫 「西域残映」

前林栄氏より

前林章司 「支笏湖畔」

「奥入瀬」

「クムジュンからのアマダブラム峰」

「工芸」

白川徳蔵氏より

青木滋芳 「早瀬」

鹿島和生氏より

鹿島一谷 「布目象嵌白鷺四態図銀水注」
宮之原初子氏より
宮之原 謙 「双魚花瓶」
山室和子氏より
山室百世 「桃花模様ランプシェード」
【書】
大網富志男氏より
板倉花巻 「神情詩」
小谷絢子氏より
小谷碧洞 「輝虎賦詩」
「蘭亭序」
種谷扇舟氏より
種谷扇舟 「龍虎」
「靈峯」
伊能静光氏より
外口静葉 「白楽天詩『晏起』」

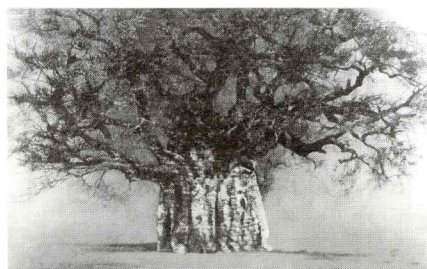
企画展「星襄一展」

本県八千代市に在住した星襄一は、国内外で活躍した、国際的な版画家です。家業であった孔版印刷業（ガリ版屋）の技術を応用した孔版版画の作品で受賞したのち、本格的に絵画を学ぶため、武蔵野美術大学で油絵を学び、43歳で卒業しました。

当時の版画は、抽象が主流でしたが、星は、水・雪・星座・樹・銀河など身近な題材を作品にしました。またベニヤ板を版木に用いたり、彫りにガス・バーナーを使用したり、金銀箔を刷りに取り入れるなど独自の技法を創造して、星版画を完成させました。

本展では、星の初期から晩年に至る作品に、版木もあわせて展示し、星の版画芸術の魅力を幅広く紹介します。お楽しみに。

会期 9月4日(土)～10月11日(月)
入場無料



星 襄一「王の樹」1976

企画展

「第23回千葉県移動美術館」

より多くの県民の方々に、本館所蔵の作品を鑑賞していただくため、以下の2会場で展覧会を開催します。

展示作品は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野にわたる約40点を予定しています。

■第1会場

会場 茂原市立美術館
会期 11月18日(木)～12月1日(水)
住所 茂原市高師1345-1
電話 0475-26-2131

■第2会場

会場 下総町多目的ホール
会期 12月4日(土)～12月19日(日)
住所 香取郡下総町高岡1435
電話 0476-96-0064

実 技 講 座

県民の方を対象に創作の喜びを味わっていただくために、各種実技講座を行っています。

※開設時間 1:00～4:30



■彫刻講座

会期 7月21・22・23・27・28・30・31・
8月1・4・5日
講師 福永 巨
内容 塑造
定員 15名
締切 7月8日(木)

■版画講座

会期 10月20・21・22・23・28・29・30・
31・11月2日・4
講師 上野 遼
内容 木版画
定員 20名
締切 10月7日(木)

■金工講座

会期 1月25・26・27・2月1・2・4・5・8・
9・10日
講師 小林正利

内容 銅版レリーフ

定員 15名

締切 1月12日(木)

<申込方法>

往復ハガキに希望講座名を記し、住所・氏名・電話番号を明記して、(ハガキ1枚につき1名)「千葉県立美術館普及課」あて申し込んでください。但し、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

美 術 講 演 会

千葉県立美術館開館25周年記念特別展「ヒューストン美術館展」に併せて、美術講演会を開催します。

演題 「伝統と創造—ルネサンスから近代へ—」

講師 千足伸行氏(成城大学教授)

期日 6月19日(土)

2:00～3:30

会場 美術館講堂

定員 200名

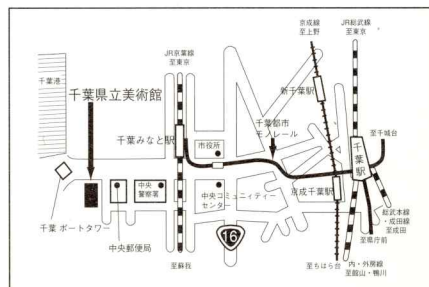
料金 無料

<申込方法>

往復ハガキに「講演会希望」と記し、住所・氏名・電話番号を明記して、(ハガキ1枚につき1名)「千葉県立美術館普及課」あて申し込んでください。但し、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

<美術館案内>

●JR「千葉」・京成電鉄「京成千葉」駅より「千葉ポートタワー行」バス15分「美術館・中央郵便局前」下車徒歩1分
●JR(京葉線)・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車徒歩8分



〒260-0024

千葉市中央区中央港1-10-1

電話 043-242-8311(代)